

聖徳太子のおもかげに会う 斑鳩

～1400年つづく和の心～

斑鳩のまちで、つみかさなる歴史が息づく姿を通じて、聖徳太子の面影に出会うことができます。

斑鳩町を訪れ、その歴史にそって旅すること、それは、聖徳太子の時代、1400年の悠久の昔から連綿と伝わる日本の心の原点にふれあうことです。

2026年の斑鳩町の「観光」イメージ

多くの観光客が法隆寺だけでなく、まちあるきを楽しみ、斑鳩の歴史のワクワク・ドキドキ感を体感しています。
新たな観光産業が根付き、古い町並みをいかした「にぎわい」のあるまちづくりが進んでいます。



町民の理解・参加促進

**観光客の拡大、リピーター創出のためには
町民のみなさんのご理解と積極的な参加・参画が不可欠です！**

観光客は地元住民の受け入れ姿勢やおもてなしなど「町の空気感」に敏感。
みなさんのご理解と積極的な参加・参画で、観光客の笑顔をはぐむ町の空気感を創り出せます。

**ようこそ元気な斑鳩へ！
郷土愛と誇りをもった町民一人ひとりが
「おもてなしの主演」**

- 観光客に笑顔で接し、元気な声で「こんにちは、観光ですか？」とあいさつしましょう。
- 道に迷っている、何かを探している観光客にひと声かけてみましょう。

斑鳩町観光戦略

～まちあるき観光をすすめ、ワクワク・ドキドキするまちに～

概要版

平成29年3月

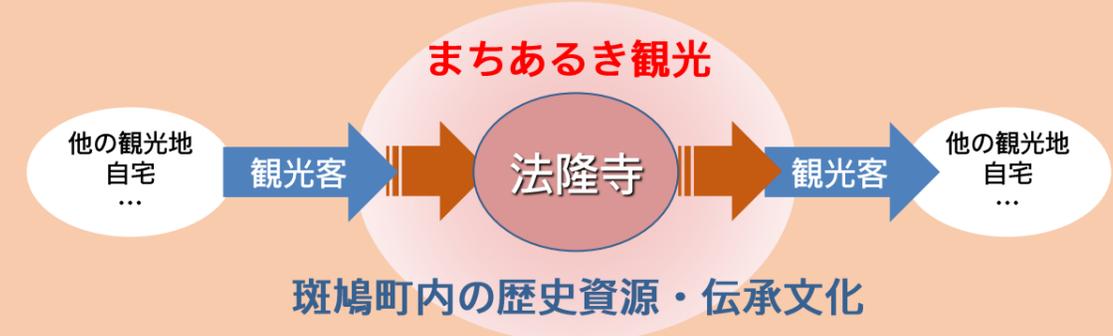


「法隆寺」中心の観光から「まちあるき観光」へと転換をはかります。

これまでの斑鳩町での観光は「法隆寺」だけを拝観して帰る「点」型の観光でした。斑鳩町のもつ「歴史的風致」を散策・回遊型のまちあるき観光へつなげていきます。

新たな観光産業を発展させ、「ワクワク・ドキドキするまち」を目指します。

「法隆寺＝斑鳩町」のイメージを脱却し、古い町並みやグルメなどの新しい観光資源を生かした新たな観光産業を発展させ、まちのにぎわいを創出します。



① 聖徳太子の息吹を感じる演出づくり

『聖徳太子1400年御遠忌』に向けて、先行的に「法隆寺」への観光ルートの整備を行い、斑鳩町を訪れる人が聖徳太子の息吹を感じることができるまちをめざします。イベントやホームページ等の充実により、聖徳太子とその思いが息づくまちというイメージを広くPRし、法隆寺周辺から範囲を広げて観光地としての演出を行います。



史跡中宮寺跡整備 完成予想図

③ 魅力発信とリピーターづくり

斑鳩町に何度も足を運んでいただけるように、情報発信の強化、観光拠点の増加、観光インフラの整備、観光イベントの開催などを推進します。旅行意向を持つ人々に対して、「法隆寺」だけでない様々な「魅力・価値」がある観光地としての斑鳩町を伝えます。また、再来訪の間隔を短くし、その頻度を上げるための工夫を行います。



藤ノ木古墳石室特別公開

② まちあるきを楽しむ斑鳩の里づくり

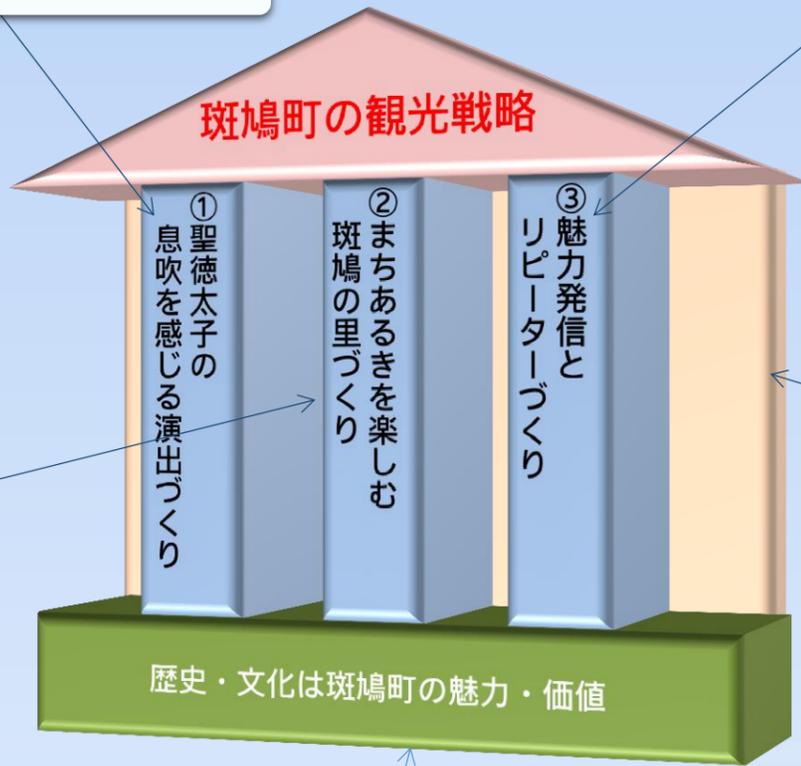
“世界遺産・法隆寺”を目的に来訪した観光客が、斑鳩町をよりゆっくりと楽しむことができるしくみを創出し、町内での滞在時間の拡大をはかります。より多くの観光客が斑鳩町を楽しむと同時に、斑鳩町の産業の活性化につなげていくとくみをすすめます。斑鳩町の新しい観光資源としての活用が始まっている「古い町並み」について、より多面的に行い、「法隆寺」と並ぶ、新しい観光の中心として整備を進めます。



三町にある古民家 (左：布穀園 / 右：あいておもい)

④ 歴史ものがたりの観光活用

斑鳩町が積み重ねてきた歴史に観光客は関心があります。斑鳩町の歴史そのものが「観光資源」です。歴史を伝えることは単に「歴史資源」や「歴史的伝承」を見せることや伝えることではなく、斑鳩の里を作り・伝えてきた人々の姿を伝えることです。人々を中心とした歴史を伝えることで、「歴史資源」や「歴史的伝承」に新しい魅力を付け加えます。



歴史・文化を斑鳩町の魅力・価値の中心に据えることが、観光振興の戦略の基本であり、全体的な観光振興策の土台です。
 斑鳩町の持つ「大きな観光資源」は、その多くが歴史・文化に関するものです。それらの資源・環境・景観は斑鳩町の持つ「価値」であり、観光においては「魅力」です。